

平成 26 年 9 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中齋塾 北関東フォーラム

### 平成 26 年度第 7 回

#### 名と利

先程の青木幹事の素読は非常に良くございました。かなり読み込まれたのでしょうか。情景が目浮かぶようになると更に良くなります。講談や落語を聞くと情景が目浮かびます。特に講談は、目の前に登場人物が現われるような気持ちの良いリズムです。素読もそのようになれば大成功です。

本日は子路篇 3 です。

【三】子路曰く、衛の君子を待ちて政を為さば、子將に奚をか先にせんとすると。子曰く、必ずや名を正さんかと。子路曰く、是れ有るかな、子の迂なるや。奚ぞ其れ正さんと。子曰く、野なるかな由や。君子は其の知らざる所に於て、蓋し闕如す。名正しからざれば、則ち言順わず。言順わざれば、則ち事成らず。事成らざれば、則ち礼楽興らず。礼学興らざれば、則ち刑罰中らず。刑罰中らざれば、則ち民手足を措く所無し。故に君子は之に名づくること必ず言うべくし、之を言うこと必ず行うべくす。君子は其の言に於て、苟もする所無きのみと。

孔子が 67 歳、かなり年をいった頃です。弟子の子路と孔子がかけ合いをしているような、言葉でじゃれ合っているような感じを受けます。

人を動かす時には大義名分が要りますが、実利も一緒について来ないとはいけません。実利だけでは人は付いて来ませんし、大義名分だけでもいけません。仲間を作り人を動かすには大義名分と実利が必要です。

子路が「先生が衛の国に行かれたら、衛の君主は先生に政治を任せるのではないのでしょうか。その時には先生は何から先に始めますか」と聞きました。

孔子が「まず、旗印をきちんと掲げる。名を正すことが最初だね」と答えました。

子路が「先生は回りくどいから困ります。大義名分だけで、どうやって食べていくのですか」と言いました。

孔子が答えました。「だからお前は野卑で困る。君子は自分が分からないものに対しては

暫く考え、軽々しく発言しないものだ。名目が正しくなければ話の筋が通らない。話の筋が通らなければ、政治の問題も上手くいかないであろう。従って、その国の為すべきこともきちんと行われぬ。ものごとが混乱していれば、文化が興ることもない。文化が興らなければ、刑は当を得ないものばかりになる。裁判が公平でなければ、民は手足をゆっくり伸ばして休むことは出来ずに不安ばかりになる。だから君子というものは何か事を始めようと思ったら自分の考えを必ず先に言って、言ったことを必ず実行しなければいけない。有言実行であれば信頼関係が生まれるものだ。君子は軽はずみなことは一切しないのだよ。」

孔子が衛の国に入った時は、衛の国は親子で王位争いをしている状況で、大義名分がきちんとしていませんでした。というのは、衛の君子である霊公が亡くなり、夫人の南子は自分の子どもである公子（郢エイ）を位につけようと画策しました。しかし大義名分が立たないので、霊公の孫の出公（輒チョウ）を即位させました。出公の父親の蒯聩（カイカイ）は、父親の霊公と喧嘩をして追放されていたので、出公は位を父親に返さなければいけないと腹の中では思っています。蒯聩も自分が王位に就くべきだと考えています。家臣たちは息子派と孫派に分かれて分裂し、衛の国の中はごちゃごちゃになっている状況でした。

孔子は、「そのように筋道がきちんと立っていない国だからこそ、大義名分をきちんと教えなければいけないと言ったのだ。君子（大人物）は必ずじっくり考えて、良しと思ったものでなければ手は出さない。お前は軽はずみでいけないよ・・・」と子路を論じています。

論語の読み方は現代に置きかえる視点が必要です。会社を経営されている方にお聞きします。後継は上手くいっていますか？・・・スムーズに次の人にバトンタッチをするというのはかなり大変です。

また、「君子は其の言に於て、苟もする所無きのみと」（有言実行）の部分は、経営者であればよくよく肝に銘じておく必要があるでしょう。

中斎塾フォーラムでは、これから佐藤一斎の『重職心得箇条』についてももう一度見直してみようと考えています。組織が育って、組織としての体を為してくると、その中で幹部になる人はこういう人間でなければならない、というお手本が必要な時期に来たかもしれないと思ったからです。『重職心得箇条』は佐藤一斎が、重職たる者はこうすべしという心

構え・行動指針を書いたものです。小泉元首相が総理大臣在任中、外務大臣の田中真紀子さんに『重職心得箇条』を渡したという話は有名です。中斎塾フォーラムで『重職心得箇条』にスポットを当てて、1年間くらいかけて勉強すれば、重みをもった幹部が生まれるでしょうし全体のレベルも上がると考えています。

### 恒例の質問

8月は夏休みを戴きましたので、夏の間で考えてみましょう。

- 夏の間、比較的嘘をつかなかった方
- 夏の間、比較的良い日が続いたという方
- 夏の間、有難うと言われることが多かった方

「有難う」と言われると、「有難う」と言った時よりはるかに自分の心が穏やかになります。手を挙げなかった方は、意識してアンテナを張り、「有難う」と言われたら見過ごさないようにしてください。

- 夏の間、健康に良い事を比較的やっていた方

健康法といっても、薬に頼らない健康法を実践されると良いですね。そして何か異常があったら、やはり医者に見てもらおう。そうすると九死に一生を得るようなことが出てくるかもしれません。

- 夏の間、一度でもよいから明日のことを過去形でイメージ出来た方

明日のことを過去形でイメージする、そういう気持ちを持って下さい。明日はワクワクするような楽しいことが待っていると思うと、イメージが出来やすいと思います。

### はっきり分からないことで、世の中は動いている

本日ご紹介するのは、『木内信胤語録』です。この本のページをめくって、目についた一行を読むだけで、じっくり考えなければならない珠玉の言葉が詰まっています。是非一度ゆっくりご覧戴きたいと存じます。気に入った言葉を一つご紹介します。

日本の多神教は、生まれ直しをしないといけない。日本の国土というのは、実に良い国ですよ。大八洲の国ですよ。日本の国が始まったのは縄文時代です。始めの分からない国です。何万年前かもしれない。こんな国は他にないですよ。あなた方は、縄文時代という認識がないから、日本はとんでもない国だということが分からないんですよ。

縄文時代は、13000年から16000年前と云われています。最近私は縄文時代が気になって

色々な本を読んでいます、その中で特に漆について印象に残った記述がありました。縄文人は漆の木を相当色々な形で使っていたようです。若い芽や実を食用にしていました。また、竪穴式住居の柱は7、8割が漆の木で建てられています。それだけ身近にありましたから、だんだん漆の使い方が発達して漆工芸品が出来るようになります。最近の考古学の科学的分析からみると、日本で漆工芸の文化が発達し、それが朝鮮半島を通じて大陸に渡り、暫くして大陸から朝鮮半島を通じて日本に返ってきたのではないかと、という痕跡が見受けられるそうです。ここ30年くらいの中で、考古学が根底から変わってきているなという認識を持ちました。その行きつくところは、世界最古の文明国は日本ではなかったかということになります。中国は悠久四千年の歴史と言いますが、1万3千年の歴史を比べると日本の方がはるかに古いということになってきたというわけです。

木内先生が生きておられる頃は、勿論考古学的にそこまで解明されていませんでしたが、「日本はとんでもない国だ」と言われていたことに驚きます。更に、

日本語なんて、本当に神秘的な言葉ですよ。どうして、漢字やカナや平仮名やアルファベットを使って、平気でいられるんですか？ 大変な言葉ですよ。ここで、じわーっと発達しているんです。外国語を自由に取り入れる言葉なんて、日本語くらいですよ。実におおらかですね。

平仮名を使ってごらんください。言葉に風格が出てくるから……。面倒くさくみられるのは、本当はとても良い事なんですよ。

と続けておられます。

これは全部反語がついています。ここに表現された言葉の一つ下をみると、驚くような言葉が埋まっています。顕在意識で聞いている言葉を一つ掘り下げてみると、潜在意識も見えてくる。その下には深層意識が見えてきます。猪瀬理事長の学んでおられる唯識学からいくと、末那識が見えて、阿頼耶識が見えるということです。阿頼耶識は陽明学の「良知」という言葉と繋がっている言葉です。日本語というのは、表面に見えたものだけすべて理解したつもりになってはいけません。必ず、その下に埋まっている言葉があります。反語を捉えたら、その下には更に深く広く広がっている根っこがあるのです。

では本日のテーマに参りましょう。

ものごとは、複雑に考えちゃ駄目ですよ。あっさりとするのが良い。疲れるし、困っちゃうからね。はっきり分からないことで、世の中は動いているんですよ。だから、はっきり分かろうとしないで、そういう態度がいいんです。

木内先生 94 歳の時の言葉です。

一つひとつの言葉の中にどれだけの情報量を持っているかによって、人間は判断力が変わってくるし決断力も変わってきます。そういうなかで木内先生は「ものごとは複雑に考えちゃ駄目ですよ」と言われました。例えば今の世の中で見れば、＜アベノミクスは成功するか失敗するか＞・・・多分皆さんはこういう時は成功、こうなったら失敗という具合に色々な条件をつけるでしょう。木内先生が言われたのは、そういう考え方をしないで単純に失敗する・或いは成功するとポンと言えよ。それが外れたなら、なぜ外れたかを考えればよい、というわけです。なんと木内先生は気楽なのかと思いますが、その気楽な感覚に辿り着くまでには、相当な知識の蓄積と時間がかかったのだと思います。先生のおっしゃる通り、物事は複雑に考えないでおおらかにいきたいものです。

「はっきり分からないことで、世の中は動いている」・・・想定外で動いているということですから、はっきり分かれようとしな。そういう態度が良いということです。自分が考えて世の中の事を全部きちんと説明できるかといえば、出来っこありません。想定外な事ばかりで動いているのですから、想定外が当たり前だと思っていればそんなに腹も立たないでしょう。「はっきり分からないことで、世の中は動いている」ということは、足るを知るに直結します。

### 縦軸と横軸で考える — 中国と日本 —

我々は新聞を見たりテレビやネットから色々な情報を得て判断をしているわけですが、ふっと気がつくと新聞に依存していることがあります。ネットを見ればネットに依存している場合があります。ネットでさらさらっと読んで、何となく分かったつもりになってしまう。これは氣をつけなければいけません。じっくり考える時間が必要だと思っています。

そうすると皆さんは、「足るを知る」という言葉を時々じっくり考えてみて下さい。何故「足るを知る」という言葉が生まれたのか、何故「足るを知る」と思うのか、何故「足るを知る」が良いのか・・・何故？ 何故？ と考えることは、どんどん掘り下げることになります。掘り下げていくなかで、はっと思う良い言葉にぶつかります。そうしたら、それは我がものとなります。我がものとなった言葉をよく味わっていくと、どこかで大きな悟りに繋がります。

何度も申し上げていますが、ものごとを考える時は、縦軸と横軸で考えましょう。今日何かテーマを皆さんからお聞きして、それについて考えてみましょう。何か氣になっていることはありませんか。

＜中国と日本＞というテーマを戴きました。

まず縦軸（歴史）で考えましょう。中国の歴史と日本の歴史を考えるにあたって、何か

キーワードはありませんか？

今の日本で考えれば、皇室が一つの大きなキーワードです。天皇陛下と、周近平国家首席を比べてみると、どのように歴史の重みを感じますか？ 圧倒的に皇室の歴史の方が重みを持っています。周近平さんはたまたま今のポジションに就いただけです。皇室という視点で眺めてみると、日本の国は血筋を重んじています。万世一系で神話の時代からずっと現代に繋がっている、誰もが認める非常に珍しい国です。

対して、中国は悠久四千年の歴史と言いますが、漢民族がずっと中国を統治してきた訳ではありません。来月はモンゴルに行きますが、蒙古は中国を攻め滅ぼして中国大陸全部をおさえて、尚且つヨーロッパまで足を延ばして世界最大の国を造りあげました。元という王朝は、中国ではなくて蒙古（モンゴル）が中国を征服していたわけですから。日本の場合にはそういう時代はありません。中国は他国に征服された歴史のある国家、不連続的に歴史が繋がって来ているのです。特に中国は易姓革命ですから、一族郎党皆殺しにして新しい王朝を立てるわけですから。そのくり返しです。ですから中国と日本を比べると、歴史的にみてもそれだけ違う国だということですから。

では、他のキーワードを考えてみましょう。中国と日本で何か浮かぶことはありますか？ 皆さんにお聞きします。

(返答) 領土問題

人間性の違い

多民族国家・単一民族国家

中国はルール無視・日本はルール尊重

大陸と島国の違い

教育（反日・歴史教育）の違い

中国での日本企業が目立っている

中国の政治家は酷い（賄賂）

・・・色々なキーワードが出て来ました。これを縦軸（過去・現在・未来）と横軸の中にポンポンと書き入れてみる。こういうふうにして物事を考え、新聞を読まれるとよいでしょう。

日本と中国の歴史を見ると、やはり平和と戦争が続いてきています。ただし、実際に大きく戦争をしたのはごくわずか、あとは口先だけの威嚇です。聖徳太子が遣隋使を送る時に「日出づる国より」と書いたというのは皆さんもご存知でしょう。中国は中華思想ですから、自分から離れれば離れるほど蛮夷（野蛮人の国）と考える。ですから日本は完全に

野蛮人の国だと思っている。しかし一方では、不老長寿の薬がある国、蓬莱島とも見えるわけですから中国から見ると、日本は得体の知れない国という部分がかかなりあるのではないかという感じがします。それにしても結構ちょこちょこ細かいことをする国だと思います。ということで中国の歴史については、大きなものの見方をすると同時に、細かな事もする国だという印象をもって私は中国を見ています。

では日本の国の歴史で考えます。日本の始まり縄文時代、1万3千年から1万6千年前です。文化・文明の定義づけによって日本の位置関係はかなり変わってくると思いますが、先程申しましたように考古学の考え方が根底から覆りつつあるというところで見ると、世界で最古の文明国家ではないかと考えられます。相当な人数のいる村落であれば君子が生まれてくると思うのですが、日本には君子が生まれなくて、血縁関係による多くても百戸くらいの集落が沢山あり、それらが何千年も続いていたという事だそうです。それを果たして文明国家と言えるのかということで、考古学のなかで論争が続いていくのだろーと思っいます。それを潜り抜けて、最古の文明国家ということになるのだと思っいます。

横軸で考えましよう。陸地・国土を横軸に取ります。単に地質学的なものではなくて、日本人という民族が形作られたものとして考えると、日本人は宗教心が非常に高い。なぜ宗教心が生まれたかという、春夏秋冬の季節があるからだと言われます。冬の間は枯れている木が、春になると生まれ変わったように芽吹いて、緑が生い茂り花が咲く。日本はまるで甦りの国だと評する外国人も沢山いるようです。四季があつて、雨が沢山降る。島国で山があり海があり、山の幸海の幸に恵まれて、四季折々の草花が咲いて・・・確かに蓬莱島のような感覚になりますね。そういう国だから、八百万の神という宗教的な心が芽生えて、宗教心として成立し、神道が国の根幹におさまっている。その歴史が営々として1万年以上あるわけですから。そして1万年以上の歴史があることを国土が裏付けています。ですから日本は他の国と比べて根幹から違ふのだと思っいます。世界の四大文明と言っいますが、日本は日本独自の文明だと評する学者が結構います。儒教や中国大陸の影響を唱える人もいますが、日本を調べた学者は、日本は唯一独特の文明国家だと言っ学者もいるのです。

ですから縦軸で見ても日本は特殊で、横軸で見ても特殊なのです。縦軸と横軸の中に、先程皆さんから出た事例や時事評論でお話する最近起きている事象などを点としてどんどん書き込んでいきます。そうすると融合するのです。ある日突然、物の考え方がポンと繋がるのです。それを悟りと言っいます。悟りとは「何だ、こういうことか」と、どこかでハッと氣がつくことです。

<中国と日本>というテーマを掘り下げていますが、中国と日本で違ふのは何か。一番

は貪欲さだと思います。日本は一言で言えば大らかさ、寛容の精神が非常にある。和魂（にぎみたま）です。中国は自分が欲しいものを手に入れる時は、戦って相手を殺して手に入れる。日本は禅譲、譲るのです。だから根本的に中国と日本は違うのです。韓国も中国とほぼ同じ思考形態を辿っているから、中国と韓国はどうみても水面下で手を結ぶでしょう。ロシアは少し違ったやり方ですけれども、やはり易姓革命のような革命をしています。

日本は世界の潮流の中で珍しい国のわけです。日本人が持っている「足を知る」とか「おかげさま」とか「有難う」の一番根っこにあるのは神道です。八百万の神という宗教心が他の国々とあまりにも違い過ぎるから、それらを根底に据えて他の国々とお付き合いをすればよいと思います。

### 新聞記事からみえるもの

昨日・今日の日経新聞からいくつか気になった記事を紹介します。

#### ・拉致調査報告先送り

北朝鮮は儒教圏の中で最も儒教の影響を受けた国ですから、孔子の考え方を金科玉条にしているということに一応なっているわけです。それが拉致調査先送りというのは、明らかに日本とのやり取りの中で、自分たちが上手い汁を吸うにはどうしたらよいかを考えて動いているわけです。

#### ・スコットランド独立否決へ

イギリスでスコットランドが独立しようと動いている。独立の賛否を問う住民投票で、独立が否決されたという記事です。図らずも領土問題は中国だけではありません。スコットランドもありますね。イスラム国というのは国ではありませんが、国を造ろうとイラクとシリアにいる過激派が勝手にイスラム国と名乗っている。ロシアは北方領土問題がありますが、日本と仲良くしようとしていますから、ウクライナに手を付けている。領土問題は今、目に見えない所で、世界各国で話が膨れ上がって来ています。中国は日本の沖縄に火をつけようとしていて、火もつきかかっていると感じます。

#### ・マイナス金利短期国債で続く

日銀が金融緩和の一環として短期国債の買い入れを実施。3ヶ月から1年の短期国債の一部で日銀の購入価格が償還価格を上回るマイナス金利になったとあります。世界的にマイナス金利の流れになっていますから、それは何を意味するか……。歴史を考えてマイナス金利で国債が破裂した場合どうなるか、考えてみるとよろしいでしょう。

#### ・森元首相、韓国大統領に首相親書

日本政府内では、大統領府が親書の内容を公表したことについて、事前に了解も取らず

にけしからんと反発が広がっているとあります。相変わらず非難応酬でみっともありませんね。

みっともない話がもう一つありました。

・みんなの党 浅尾・渡辺両派が論争

浅尾代表と渡辺前代表が両院議員総会を開いて今後の路線を決めるという記事です。

・デング熱 上野公園で蚊を駆除

代々木公園でデング熱のウィルスを持つ蚊が確認された時は、50メートルの範囲を駆除すれば大丈夫という想定の下、75メートル駆除したから大丈夫だと言った。ところがあつという間に明治神宮に広がり、新宿御苑に広がり、今度は上野公園です。よく読んでみると、50メートルの範囲の駆除というのは、家やビルのような障害物がある所では蚊があたりこちにぶつかるからそれほど飛ばないという想定のもとの数字で、公園のように遮るものがない所だったら100メートル200メートルと飛んで行きますという専門家の台詞が後になって出て来ました。専門家の言った想定外のことを考えないで、皆自分の勝手な判断で動いている。

一つひとつの事例を、縦軸と横軸の間にどんどん書き込んでいくと、どこかで繋がりがあって、頭の中に融合したものがハッと浮かんできます。浮かんできたものを悟りと言い、大きい悟りを木内信胤先生は「総合的直観力」という言葉で言われていました。我々がここで学んでいることは、木内信胤先生の言われた「総合的直観力」、そして安岡正篤先生の言われた「思考の三原則」を私が「本質・大局・歴史」という言い方に変えて説明をしています。ですから学問的に見ると木内先生・安岡先生、その前に山田方谷・佐藤一斎という陽明学の学縁と、ずっと一本縦の線が通っているものを説明しています。自分で勝手に思ったものをお話しているわけではありません。先人から受け継いだものを次に伝えるようにしています。

ちなみにシムックスという会社は、S (security) E (ecology) M (management) S (succeeding)の頭文字をとっています。Succeedingという言葉は、継承し胚胎するという意味です。先人の知恵を受け継いで、発展させ、新しいものを生み続けていくという、非常に深い言葉です。論語の「述」の一步先をゆくものだと思っています。

私は中斎塾フォーラムで、学びの縁を深めて皆様にお伝えしていますので、皆さまは、そこから更に自分のものを作り出して、次の人に伝え、発展し続けて戴きたいと思っています。